

東久留米国際友好クラブ(HIF) 日本語教室ボランティア説明会



日本語教室ボランティアとは

■外国人の日本語学習を手伝う草の根の活動

- 外国人が学びたい希望を最優先に・・・
- ボランティアが自分の使える外国語を使って教える場所ではない。
- 媒介語(外国語)を基本的には使わず、日本語で日本語を教える直接法で学習。

■資格や経験、外国語力は問われない。

■交流を楽しみ、外国人に伴走する気持ちが大切。

東久留米市の外国人住民

- 市民117,069人中 2,261人
約 2 パーセントが**外国人**
(2021.5.1現在)

外国人が所持する在留カード →

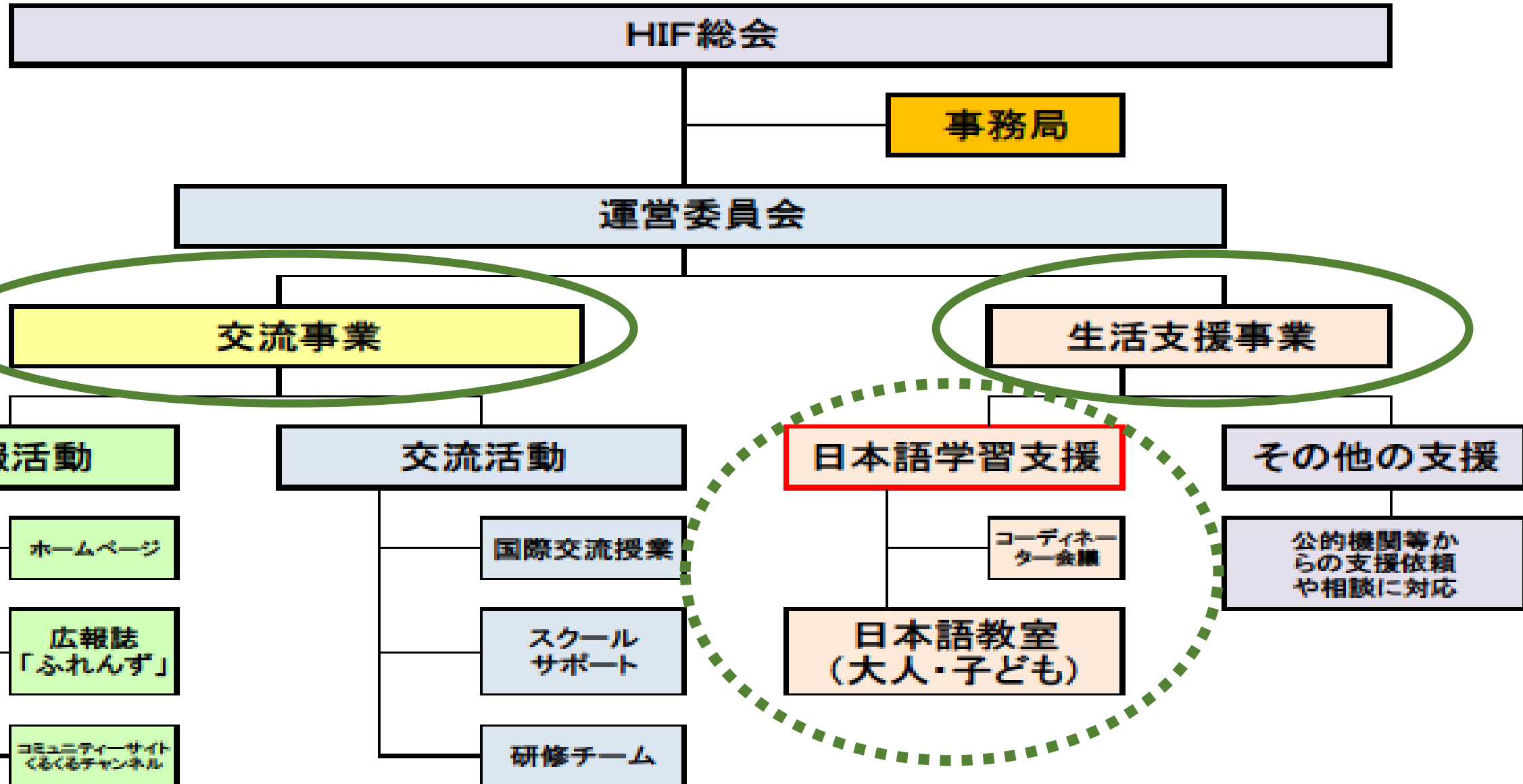


- 中国・韓国・フィリピン・米国・ベトナムの順に多い。
- ネパール・スリランカ住民の増加。

HIFの組織と活動

- HIFは1993年設立。日本語教室は1994年から。
- 会員60名は全員ボランティア。会員の年会費によって運営。
- 風通し良く、皆が同じフィールドに立って情報を共有し合いながら活動している。
- 活動の二本柱は、**生活支援事業**と**交流事業**

東久留米国際友好クラブ(HIF) 組織図



●——東久留米市との協働事業——●

地域生活支援の場としての

日本語教室



日本語教室は市との協働事業（2004年から）

- 東久留米市とHIFは協定を結んでいる。

事業目的の共有 事業は、東久留米市及びその周辺市に在住する外国人及び原則市内小中学校在籍の外国につながる児童・生徒を対象に、ボランティアによる日本語学習の機会を提供し、もって地域に在住する外国人の生活支援や交流を促進することを目的として実施する。（協定文より抜粋）

- 東久留米市とHIFは役割を分担している。

- 東久留米市 学習活動の場所や教材置き場の確保。
市報での広報。
- HIF 日本語教室活動の運営。

場所と時間

●大人のクラス（学習時間 午前10時—11時30分）

月曜日クラス 南部地域センター（ひばりが丘団地）

水曜日クラス 東部地域センター（大門町）

木曜日クラス 西部地域センター（滝山）

●子どもクラス（学習時間 午後3時—5時）

水曜日 市役所1階 プラザ会議室

ボランティア

- 30代～80代。約60名。
- 主婦、仕事をリタイアした人、職業を持っている人等々
- HIFの活動にどのように関わるかは自分で決める。



日本語教室(日本語学習・コーディネーター・会計・教材管理など)
会の運営 (運営委員・事務局)
交流活動 (活動チームへの参加・行事の企画や実施)

学習者

- 国や地域：2020年度は17か国，48名の方が参加。
- 小中学生～70代。主婦・宣教師・調理師・介護研修生等々
- 日本語のレベル：入門～上級
- 参加目的
 - 日常生活で使える日本語の習得・スキルアップ。
 - 日本語能力試験の準備。
 - 役所や学校の書類を読んでもらい、理解する。
 - 交流 ● 相談

子どもクラス

- ボランティアが協力して、学習や活動を組み立てる。
日本語の学習と学校の勉強、両方に対応する。
- 子どもの置かれている立場を尊重する。
- 保護者の状況にも目を配る。



安心できる居場所

経験がなくてもボランティアはできます

■ 見学（いろいろなペアの学習）

■ ボランティア同士の教え合い

■ 研修

■ 日本語学習教材（学習者用・ボランティア用）



過去の説明会で多かった質問

■ Q. 用事があるとき、休めますか？

A. マンツーマンの学習ペアは半年間継続します。ボランティアは**毎週出席が原則**ですが、用事のある時は休めます。

■ Q. 学習ペアはどのように決まるのですか？

A. まずは学習者の様子をクラス内で共有します。その後話し合いを経てマッチングを決める方法が主です。

■ Q. 教材は自分で買うのですか？

A. 各クラスとも様々な教材を持っていて借りることもできます。新たに購入したい教材があるとき、クラスの蔵書にふさわしいと判断されれば教室予算で買うこともできます。

ヒト・モノ・コトが出会う

交流活動



交流活動は新たな出会いの場

- 国際理解講座
- 世界の料理
- 散策
- ストーリーフェスタ～外国語による絵本の読み聞かせ
(図書館)
- 国際交流授業(学校)
等々



教室でお待ちしています！